県中教育

随想

『汝何の為に其処に在り也』

県中教育事務所長　石幡　良子

今年は『東京２０２０オリンピック・パラリンピック』開催の年でもあり、夢と希望に満ちた輝かしい年になるはずでした。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、オリンピック・パラリンピックは一年延期となりました。また、四月十六日に緊急事態宣言の対象地域が全ての都道府県に拡大されたことを受け、「福島県緊急事態措置」により、外出の自粛や学校の一斉臨時休業が要請され、子どもたちの当たり前の学校生活が失われました。五月十五日をもって「福島県緊急事態措置」は解除されましたが、全面的な授業再開は、六月一日からとなりました。

そんな中、教職員の皆さんは、「今できることは何か」を必死で考え、子どもたちの学習保障のため、心のケアや感染防止のために全力を尽くしてくださっています。心から感謝申し上げます。

さて、私の尊敬する先輩（前勤務先の上司）が、毎年、年度初めの会議にて、必ず職員に話される言葉があります。

『汝何の為に其処に在り也』

「私たち教職員には異動がある。人事異動にはすべて意味があり、自分がその学校や行政機関に配置された理由は必ずある。何のために自分が今ここにいるのか。自分が今やるべきことは何なのか。常に自問自答しながら、与えられた立場でベストを尽くしてほしい。」というものでした。

そう考えると、皆さんが今いる学校に配置されたことも、同僚と同じ職場になったことも、目の前の子どもたちと出会えたことも、実は理由があるということです。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、学校が担わなければならない役割も増えました。こんな状況だからこそ、皆さんは子どもたちのために、「今できることは何か」を必死で考えてくださっています。引き続き、自分の役割を問い、自分だからこそできることを考え実践していただきたいと願っています。

私も、県中教育事務所長として二年目を迎えます。二年目となった理由を考えるとともに、前例のないこの状況の中、教育事務所は何をすべきか、所員とともに本気で考え、学校を支えて参ります。

『汝何の為に其処に在り也』

それぞれの立場で自問自答しながら、子どもたちのために力を尽くしていきましょう。

編集・発行
福島県教育庁
県中教育事務所

発行責任者
石幡　良子

編集協力
県中市町村教委連各支会
県中各地区小中学校長協議会

宥貞法印の願いは今も…

浅川町教育委員会教育長　真田　秀男

浅川町は、福島県最古の歴史があると言われる「浅川の花火」、世界的病理学者である吉田富三博士などが有名です。吉田博士の功績をたたえて建てられた吉田富三記念館は、子どもたちの「がん教育」にも活用されています。

実はこの他にも、町指定文化財である貫秀寺の即身仏、弘智法印宥貞（ゆうてい）が最近、脚光を浴びることになりました。昨年十一月より今年二月まで、国立科学博物館で開催された「特別展ミイラ～『永遠の命』を求めて～」に展示されたのです。開期中、四十万人を超える来場者があったそうです。その一人、脳科学者の中野信子さんも「展示の中で、特に強い印象を受けた。…かなりの動揺を感じるほどの力強さがあった」と『文芸春秋』で述べています。

宥貞法印は天和三年（一六八三年）、当時、村人を苦しめていた疫病を鎮めるため入定（にゅうじょう）しました。このような理由で即身仏になった例はなく、よほどひどい疫病が蔓延していたものと思われます。

宥貞法印は、即身仏となることで永遠の命を得、そのときばかりでなく未来永劫にわたって疫病に苦しむ人々を救おうとしたのです。つまり、今回の新型コロナウイルス感染症の発生をも見据えての入定だったのです。

その決意は、次の言葉からも感じ取れます。「生命を終えてなお、見る者にただならぬ気迫を伝える姿は、衆生救済のために我が身を燃やし続けようとする修行者のそれであるように感じられた」（中野信子氏）

新型コロナウイルス感染症は、さまざまな方面に計り知れないほどの影響が及んでいます。日々成長している子どもたちがこの間に得られなかったものをいかに取り戻していくか、教育関係者の英知を結集する時です。授業時数等の数字合わせだけに終わることなく、子どもたち一人一人にいっそう寄り添いながら、教育のあり方をも振り返ってみるよい機会であると思います。

「平成三十一年度子供の読書活動優秀実践校（文部科学大臣表彰）」の取組

郡山市立明健中学校

本校では、九年間の義務教育全体を見通した教育方針のもと、主体的に学習する子どもの育成を目指し、読書活動に取り組んでいる。

一　校内図書選定委員会

図書館担当、教科主任のメンバーで構成された校内選定委員会で図書の選定を行い、分類別の充足率を把握し、授業で使用する図書の購入をしている。充足率が七十％程度に満たない分野を今年度の校内重点図書としている。

二　図書委員による小学生への「読み聞かせ交流活動」

昼休み時間を活用し、小学生を対象に月二回の「読み聞かせ」を実施。小学生と交流する時間は、下級生から認められる経験となり、自尊感情を高めている。

三　新聞活用の日常化

「環境」「政治」「スポーツ」「医療」の四部門ごとにファイルを作成し、新聞の切り抜きを行っている。部門ごとに分けてファイリングしてあるので、興味・関心があるものを手軽に見ることができ、「社会科」や小学校の「総合的な学習の時間」で活用することができる。

四　小・中共通貸し出し

明健小・中学校では小中学校統一の貸出カードがある。小学校図書委員が中学校図書館での貸し出し・返却作業をすることで、小学生の来館が増えている。一方で、中学生が小学生のパソコン操作を指導している。

五　「明健ビブリオバトル」「ポップコンテスト」の開催

年五回のビブリオバトル、年一回ポップコンテストの大会開催により、多くの児童及び生徒に本の楽しさや面白さを伝えている。ビブリオバトルは毎年、県大会に出場し、全国大会にも出場している。

六　「明健文学賞」の開催

芥川賞や直木賞の作品の展示及び市内の中学生を対象に募集している百合子賞に感化され、短編小説「明健文学賞」を毎年募集。優秀作品を文化祭に展示している。この企画により、九分類（文学）の貸し出し冊数が大幅に増えている。

ふくしまっ子体力向上総合プロジェクト事業「ふくしまっ子元気大賞」優秀校としての取組について

郡山市立小泉小学校

小泉小学校では、「一緒に一所懸命！レッツ汗かき！」を合言葉に、家庭と地域、学校がともに、子どもの「体づくり・健康づくり」に取り組んでいます。

目標を決め、それに向かっての体づくりと健康づくりが本校の取組の基本です。そこで、毎日取り組んでいる運動や体育の授業で測定した運動の記録、健康診断や体力テストの結果等を、自分手帳や学習カードに記入しています。成長と努力の足跡を記録した自分手帳とカードは子どもたちの宝物です。

健康づくりの時間も充実。火曜日の朝は「さわやかタイム」です。全校生、全職員での「ラジオ体操」、眼輪筋を鍛える「アイアイ体操」、口輪筋を鍛える「あいうべ体操」。これらは、本校の健康課題を踏まえて、学校保健委員会でＰＴＡや学校医、教職員が一緒に考えた取組です。

水曜日のお昼休みは「あそびっ子タイム」。児童会健康委員会企画の運動遊びの時間です。

友達と楽しみながらの体力向上に笑い声を響かせて気持ちのよい汗を流しています。どちらも本校自慢の時間です。

家庭との連携には「さわやかチェック表」を活用。これは健康生活の確認表です。親子で運動時間やテレビ・ゲームの時間を決めます。そして、それらを守っているかを振り返り、生活を改善します。

さらに低・中・高学年ブロックでの体育の学習では、自分の体を意識して運動身体づくりプログラムに取り組むことで体幹が鍛えられ「動きたい体と気持ち」が育ちました。

自分の体を大切にして健康で安全な生活を送り、コロナ禍に自ら立ち向かうことができる子どもを、学校が核となり「われらが学園」として、家庭や地域と一緒に、一所懸命育てています。

初任者紹介～三か月を振り返って～

天栄村立天栄幼稚園

教諭　藤田　愛結

四月から幼稚園教諭として働き始め、あっという間に三か月が過ぎました。新しい環境に戸惑いや不安がたくさんありましたが、頼れる優しい先生方と無邪気に笑う子どもたちに囲まれて生活出来ることが、とても幸せです。

四月当初は、保育の楽しさを感じる一方、子どもにとって自分がしている保育は、正しいのかと悩んでいました。焦りと不安で何をするにも自信がもてませんでした。

初任者研修を通して、自分が目指している保育は何かと考え直し、磨きをかけ自信をつけたいです。また、大切な幼児期の成長を近くで見守られることに感謝し、自分に限界を作らず、常に学びの精神を忘れずに、共に成長し続けたいと思います。そして子どもたちが大きくなったときに、幼稚園に通っていたときこんな先生もいたなと思い出してくれるような存在になっていきたいです。

小野町立小野小学校

教諭　石川　朱里

四月から小学校教諭として働き始め、学校生活に少し慣れてきた頃に新型コロナウイルスの感染拡大予防のため、約一か月間も休校になってしまい、子どもたち同様、私も先の見えない不安な気持ちでいっぱいでした。しかし、休校が終わり、友達や私たち教職員と久しぶりに会った時の子どもたちの嬉しそうな表情に、私もホッとしました。このときの子どもたちの笑顔は、一生忘れられないと思います。

ウイルスによる影響はまだ残っており、不安なこともありますが、子どもたちと驚きや喜びを共有し合える日々は、とても楽しいです。これからも、目の前の子どもたちを大切にできるよう研鑽に励み、子どもたちと一緒に毎日楽しく頑張っていきたいです。

初任者研修も計画通りには進みませんが、悩みや分からないことを一人で抱え込まず、組織の一員として、子どもたちのために尽くしていきたいと思います。

田村市立船引中学校

教諭　眞鍋　航大

四月に船引中学校に赴任し、早くも三か月が経とうとしています。赴任してから数日は、自分が何をすればよいのかもわからず不安や緊張の毎日でしたが、現在は、周囲の先生方に支えていただき、ご指導をいただきながら充実した日々を過ごしています。

四月当初、校長先生から「目的の本質を見極め、上位の『目的』と最適な『手段』を設定してほしい。」とお話がありました。当たり前のようなことではありますが、実際に教壇に立つと、言葉一つ伝えるだけでも難しく、自分の未熟さを痛感しました。そんな中でも、生徒が私の言葉に耳を傾け一生懸命取り組む姿を見ると、その気持ちに応えなければならないと励みになります。

これまで私は、様々な方に支えられながら成長してきました。これからは、教師として生徒を支える立場となります。成長する生徒を見守り、共に成長し、感動を分かち合える教師になれるよう精進していこうと思います。

県立石川支援学校

教諭　久保木克臣

一心に努力を重ね、ようやくたどり着いた「教諭」の職。生徒に出会い、その嬉しさをかみしめる間もなく臨時休業となりました。生徒達の笑顔がしばらく見られないことは残念でしたが、何よりも大切なことは生徒の命だと言い聞かせ、コツコツと学習指導要領を読み込みました。

この状況に改めて感じたことは、学校に生徒がいる幸せです。またこのような中でも、研修を実施していただけるありがたさです。平常と異なる形ではありますが、支えていただいている多くの先生方が、私の気持ちを汲んでくださっていると強く感じます。今できることに全力で取り組む先輩方の姿は、私の教員人生に必ず生きると確信しています。

臨時休業が明け、現在は明るい声が校内に響きわたっています。生徒達が未来を切り開くことができるよう、私自身、これからも生徒の良さを見つけて伸ばすことのできる教師になりたいと思います。

須賀川市立第二中学校

栄養教諭　増子かおる

四月より須賀川市立第二中学校に栄養教諭として着任し、三か月が過ぎました。前年度は、学校栄養職員として郡山市立大島小学校で勤務をしておりました。小学校から中学校への異動だったため、小学生と中学生の違いを身近に感じることができるのではないかという期待と不安をもちながら四月を迎えました。

四月、学校が始まって二日目、給食が始まる前に新型コロナウイルス感染症拡大による臨時休業が決まりました。休業に伴う給食の取り消し等の業務を行いながら、職場の雰囲気に慣れるように過ごしておりました。

これから、臨時休業の対応や中学生に対しての安全でおいしい給食作りなど、さまざまな経験を通して、未来を担う子どもたちのために、実態を把握して健康課題の解決に力を尽くしていきたいと思います。

県中教育事務所よりお知らせ

総務社会教育課 社会教育担当より

「地域と共にある学校づくりをめざして」

地域と学校がパートナーとして連携・協働するための仕組みの一つとして、昨年度より、地域連携担当教職員が各学校で任命され、「社会に開かれた教育課程の実現」に向けて、地域との連携・協働を計画的に進めていただいているところです。

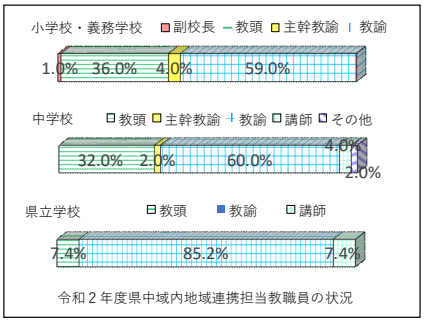
五月初めには地域連携推進委員会年間計画の調査を行い、今年度の各学校の地域連携活動実践計画を提出していただきました。

下のグラフは県中域内の地域連携担当教職員の状況です。小・中・義務教育学校では八十五％が教諭の方が担当となっています。今後も、学校全体の窓口となる教頭先生と、地域との連携協働の窓口となる地域連携担当教職員が連携し、組織として効果的・効率的な体制づくりが進められるようお願いします。

また、各学校とも地域や学校の実態を考慮して実践計画を作成していただきました。特に、地域行事への積極的な参加、地域企業と連携など、地域との関わりを重視した計画が数多くありました。地域との連携を関連付けた教育課程の編成や、地域の実態に応じた地域連携全体計画の作成など、社会に開かれた教育課程の実践を通して地域に根ざした教育活動の充実が図られています。

今後、学校や地域での有意義な活動があれば、県中社会教育だより「けんちゅうｗｉｔｈ」で掲載したいと思いますので、各校での取組の情報提供をよろしくお願いします。

最後に、今年も各教育委員会、学校の要請に基づいた地域連携を円滑に進めるための「地域連携推進訪問」を実施させていただきたいと思います。ご希望があれば社会教育担当までご連絡ください。



長沼中学校～ながぬま祭り～

学校教育課管理担当より

今だからこそできる働き方改革

新型コロナウイルス感染症の拡大防止に向け、今までに経験したことがない対応が学校に求められています。

教職員一人一人の心身のストレスを軽減し、子どもと向き合う時間を確保するために、より一層、教育活動の精選と業務遂行の在り方を見直すことが必要です。

・何でも気軽に相談できる人間関係を築き、不安や悩みの解消を図るとともに、孤立化させない。

・「新しい生活様式」実践に向け、業務内容の重点化を図るとともに、優れたアイディアについては職員全体が共有、共通実践できる組織づくりを進める。

・会議は、配布文書を最小限にするとともに、タブレットやパソコン等の活用を推進し、感染予防と印刷事務の省力化を図るよう努める。

・超過勤務時間を「見える化」し、他の教員や自分の目標時間との差を考える。

今だからこそ、児童生徒や教職員の心のケアを第一に考え、ピンチをチャンスに変えることが働き方改革を進めることにつながるものと考えます。

学校教育課指導担当より

「ふくしま活用力育成シート」について

臨時休業中に「ふくしま活用力育成シート」「定着確認シート」を広く公開したところ、多数の教育関係者や保護者の皆様などから反響がありました。休校となった約三か月、子どもが家庭で学ぶことの難しさを多くの方が痛感したのではないでしょうか。県中教育事務所でも独自に活用力育成シートの解説動画を作成し、活用を促す取組をしてきました。

子どもたちの元気な姿は学校に戻ってきましたが、「新しい生活様式」に対応ながら、「学びの保障」を求められる先生方の状況は大変厳しいものと承知しています。授業時数が限られている今だからこそ、育成すべき資質・能力が明確な「活用力育成シート」を役立てながら、「主体的・対話的で深い学び」を実現させるための授業改善に努めていただくことを期待します。

また、今後のカリキュラム・マネジメントや授業改善のヒントについて、ホームページでお知らせしていますので、どうぞお役立てください。

「ふくしま英語教育パワーアップ推進事業」

令和二年度より新学習指導要領が小学校で全面実施となりました。外国語活動が中学年から始まり、高学年においては、教科として外国語科が導入されました。

福島県では、「ふくしま英語教育パワーアップ事業」の一環として、平成三十年度より外国語教育を専門とする「ふくしま外国語教育推進リーダー」を委嘱しています。県中域内では、郡山市立行健第二小学校　松村邦明先生、須賀川第三小学校　佐藤亜里沙先生、石川小学校　慶徳ひろ子先生の三名の先生方に委嘱しています。先生方は、日々質の高い授業にチャレンジするとともに、外国語を学習するための環境整備に力を注いでいます。授業を受けている子どもたちからも「授業が楽しい」という声がたくさん聞かれています。

先生方には、二学期に授業研究会を計画していただいています。子どもたちが、さらに笑顔で英語の学習に取り組むことができるよう、ぜひ授業研究会にご参加ください。